

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800866		
法人名	特定非営利活動法人 ふるさと		
事業所名	グループホームふるさと敷島		
所在地	山梨県甲斐市大下条425番地1		
自己評価作成日	平成24年11月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年、事業所移転により新住所に引越してきました。今年の6月に旧竜王も移転し2ユニットとして新しいスタートをきりました。穏やかな環境に恵まれ個々のリズムにあわせ外出や散歩を楽しんで毎日を送っていただいています。福島県からの被災犬「ふく」を看板犬に迎え利用者様にも喜んでいただいています。明るくゆったりしたホールで皆さんと過ごされる方、日当たりの良い中庭でのんびり外気浴を楽しまれる方などそれぞれ思い思いに生活しています。心も体も元気でいようをモットーに職員一同支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧事業所の耐震構造への懸念もあり、敷島と竜王の2事業所が合併して新しい場所に移転したばかりである。しかし、新しい場所であっても、それぞれの事業所が長年培ってきたノウハウを基盤に、「ちいきにとけあい、いきいきくらし、きごころしれたなかになる」という理念を継承し、地域の人との交流を通して地域に溶け込み、根づいた事業所となるよう、日々の活動が続けられている。また、旧事業所で使っていたなじみの什器や備品を継続して使うなど、利用者が新たな環境でも戸惑わない配慮がされている。常に自分の肉親のつもりで利用者に接しているという職員の方の言葉にあるように、一人ひとりの個性や思いを尊重した支援が行われていて、多くの利用者の穏やかで明るい表情が印象的だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームふるさと敷島

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念と地域密着型サービスの意義をふまえた理念があり、全職員が理解し日々、利用者とのかかわりの中で心がけている。	事業所独自の理念と地域密着型サービスの意義をふまえた理念があり、全職員が理解し日々、利用者とのかかわりの中で心がけている。	定例会で理念を議題に取り上げたり、朝礼の時に皆で確認し合っている。地域の人と顔見知りの関係になれるよう、日々の挨拶や声かけを大切にしている。また、庭で飼っているセラピー犬を介在にして、地域の人が気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入っている。昨年の事業所移転に伴い、新しい地域での生活が始まり、日常の散歩や買い物などを通し地域の方々との会話や交流の機会を大切にしている。	自治会に入っている。昨年の事業所移転に伴い、新しい地域での生活が始まり、日常の散歩や買い物などを通し地域の方々との会話や交流の機会を大切にしている。	自治会に加入し、地域の奉仕活動には管理者が参加している。内覧会や納涼会には地域の人を招待して、事業所を理解してもらう取り組みをしている。日常的には、近所の人や庭で外気浴をする利用者とおしゃべりを楽しむなど交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を受け入れ、認知症の理解をしてもらえる機会を作っている。	中学生の職場体験を受け入れ、認知症の理解をしてもらえる機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や家族にそれぞれの立場から意見をいただいている。改善が必要な内容や要望事項など職員会議等で話し合い、取り組んでいる。	地域の方や家族にそれぞれの立場から意見をいただいている。改善が必要な内容や要望事項など職員会議等で話し合い、取り組んでいる。	メンバーからの紹介で楽器演奏やダンスのボランティアが頻りに来訪している。地区の夏祭りのときには神輿が事業所に立ち寄り、利用者も祭りに参加することができた。いきいきサロンに招待されているが、感染症への懸念や一部に認知症への誤解があることから、当面は参加を見合わせている。	地域の見守りにも通じる地区の集会やいきいきサロンで認知症サポーター養成講座を開くなど、地域に向いて認知症の方への理解を深めたり、事業所の存在を知ってもらう取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。その他、日々の業務の中で、悩みや不明な点が生じた場合には都度、連絡をとり助言を頂いている。	運営推進会議に参加していただいている。その他、日々の業務の中で、悩みや不明な点が生じた場合には都度、連絡をとり助言を頂いている。	併設の居宅介護支援事業所を通じて困難事例を相談したり、利用者を紹介してもらうなど、市の担当者と連携を図ることが多い。また、市が主催の市内グループホームを対象とした管理者研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという信念を、全職員が理解し、実施している。	身体拘束は行わないという信念を、全職員が理解し、実施している。	事業所内研修を行い、問題が生じたときは、その都度、皆で拘束しない方法を検討している。玄関は夜間だけの施錠である。昼夜逆転の症状があっても、自然な睡眠サイクルに戻るまで職員が付き添い、服薬によるコントロールはしない取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職員間で研修を行い、意見交換を行っている。	虐待について職員間で研修を行い、意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とするケースは今までにないが、知識と情報を共有できるよう、職員間で勉強会を実施している。	必要とするケースは今までにないが、知識と情報を共有できるよう、職員間で勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、改定時には書面と口頭で説明している。疑問や不明な点があった場合にはいつでも連絡していただけるよう家族に伝え、その際は速やかに対応している。	入所時、改定時には書面と口頭で説明している。疑問や不明な点があった場合にはいつでも連絡していただけるよう家族に伝え、その際は速やかに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情の窓口及び意見箱を設置している。公的な相談窓口の連絡先も書面・口頭で説明している。	ホーム内に苦情の窓口及び意見箱を設置している。公的な相談窓口の連絡先も書面・口頭で説明している。	家族会に多くの家族に出席してもらえるよう、行事と同じ日に合わせている。職員が席を外して家族だけで意見を交換する時間を設け、そこで出た意見をその後には検討し合うことで、家族が気軽に意見を出しやすい工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月実施し、気づきや提案を出し合い、意見交換を行っている。職員と代表者及び管理者との信頼関係があり、気軽に意見を出せる関係ができています。	職員会議を毎月実施し、気づきや提案を出し合い、意見交換を行っている。職員と代表者及び管理者との信頼関係があり、気軽に意見を出せる関係ができています。	管理者も夜勤など他の職員と同じ勤務形態になっているため、職員がいつでも意見や相談をしやすい関係づくりがされている。職員会議も頻回に開かれ、感染症予防として玄関に手洗い場所を設置する、加湿器を増やすなど改善が図られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績および勤務状況を把握し、給与水準等、向上心をもって働くことができるよう職場の環境の整備に努めている。	職員の実績および勤務状況を把握し、給与水準等、向上心をもって働くことができるよう職場の環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて自主的に事業所内外の研修に積極的に参加するよう促している。研修の内容にかかわらず全て勤務扱いで受講している。	必要に応じて自主的に事業所内外の研修に積極的に参加するよう促している。研修の内容にかかわらず全て勤務扱いで受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修などを通じ、交流を図り、意見交換を行っている。他のグループホームの見学をさせていただき参考にしたり、職員同士の意見交換などに役立てている。	グループホーム協会の研修などを通じ、交流を図り、意見交換を行っている。他のグループホームの見学をさせていただき参考にしたり、職員同士の意見交換などに役立てている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず本人に直接会い、思いや不安について話をゆっくり聞いている。新しい環境への不安を少しでも取り除けるよう、ゆったりとした時間を作り工夫している	入所前には必ず本人に直接会い、思いや不安について話をゆっくり聞いている。新しい環境への不安を少しでも取り除けるよう、ゆったりとした時間を作り工夫している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族に会い、家族の思い、要望、不安を聞き、出来る限り思いに沿えるよう支援させていただくことを伝えている。特に入所当初は生活状況、体調等、こまめに報告している。	入所前に家族に会い、家族の思い、要望、不安を聞き、出来る限り思いに沿えるよう支援させていただくことを伝えている。特に入所当初は生活状況、体調等、こまめに報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話をよく聞き、管理者・ケアマネジャー・職員が相談内容を確認、把握している。その後、支援全体を検討し、必要なサービス等対応している。	本人、家族の話をよく聞き、管理者・ケアマネジャー・職員が相談内容を確認、把握している。その後、支援全体を検討し、必要なサービス等対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの生活暦や心身状況を把握した上で日々、支援している。人生の先輩である利用者を尊重し、職員は常に学ぶ姿勢で共に生活している。	職員は利用者一人ひとりの生活暦や心身状況を把握した上で日々、支援している。人生の先輩である利用者を尊重し、職員は常に学ぶ姿勢で共に生活している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○家族と職員が同じ気持ちで利用者を支えられるよう、家族の思いには常に耳を傾け、情報交換している。面会時には家族の時間、空間を大切にしていただけるよう心がけている。	○家族と職員が同じ気持ちで利用者を支えられるよう、家族の思いには常に耳を傾け、情報交換している。面会時には家族の時間、空間を大切にしていただけるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はなく、来訪者が面会しやすい雰囲気作りに努めている。知人との手紙や贈り物など楽しみにしている方もおり、いつでも対応できるよう支援している。	面会時間の制限はなく、来訪者が面会しやすい雰囲気作りに努めている。知人との手紙や贈り物など楽しみにしている方もおり、いつでも対応できるよう支援している。	入院中の夫を見舞いに行くとか、利用者の配偶者が隔日のように来所して一緒に時間を過ごすなど、これまでの関係を続けられる支援が行われている。また、終末期の利用者では、家族が泊まって最後の時間を過ごせるよう対応もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活のかかわりの中で利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者には職員が寄り添い、コミュニケーションや他の利用者とのかかわりのきっかけになるよう支援している。	日常生活のかかわりの中で利用者同士の関係を把握し、孤立しがちな利用者には職員が寄り添い、コミュニケーションや他の利用者とのかかわりのきっかけになるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者や亡くなった利用者の家族の方と連絡をとったり、交流がある。	退所された利用者や亡くなった利用者の家族の方と連絡をとったり、交流がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を会話や家族のお話の中で把握し、職員間で情報を共有している。	利用者の思いや希望を会話や家族のお話の中で把握し、職員間で情報を共有している。	墓参りや買い物など日常の外出希望のほか、昔馴染みの人へ贈り物をしたとか、習字教室に通いたいなど、日々の会話やかかわりの中で利用者の意向を把握し、できるだけ実現できるよう工夫して取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話を通し、ひとつでも多く、馴染みや安心のヒントが得られるように努めている。過去のサービス利用などがある方は事業所から情報を頂くことで利用者の馴染みを知ることもある	日常の会話を通し、ひとつでも多く、馴染みや安心のヒントが得られるように努めている。過去のサービス利用などがある方は事業所から情報を頂くことで利用者の馴染みを知ることもある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態等、個別記録に時間をおって記録し、生活リズムを把握している。定期的に職員会議及びケアカンファレンスを行い「できること探し」に取り組んでいる。	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態等、個別記録に時間をおって記録し、生活リズムを把握している。定期的に職員会議及びケアカンファレンスを行い「できること探し」に取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意見を聞き、その内容をもとにケアカンファレンスを実施している。一人ひとりの気持ちを重視した介護計画を作成している。	本人や家族から意見を聞き、その内容をもとにケアカンファレンスを実施している。一人ひとりの気持ちを重視した介護計画を作成している。	毎回の職員会議で全員を対象にケアカンファレンスを行っている。日々の気づきや変化をペンの色を変えて個別記録に記入し、それをモニタリングに活用している。家族とは来訪時に個室で面談を行い、思いや要望を聞いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録にはADL状況はもちろん、食事摂取量・バイタルチェック・排泄の記入、言語や表情を具体的に記録し把握している。ケア会議の中で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。	記録にはADL状況はもちろん、食事摂取量・バイタルチェック・排泄の記入、言語や表情を具体的に記録し把握している。ケア会議の中で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の病院受診や面会時の家族の送迎など、本人や家族の状況に応じて対応している。個々の希望による外出や買い物、ドライブなど出来る限り支援している。	利用者の病院受診や面会時の家族の送迎など、本人や家族の状況に応じて対応している。個々の希望による外出や買い物、ドライブなど出来る限り支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の散歩やドライブをしながら地域の商店で買い物を楽しむこともある。地域の美容院や理髪店を利用し顔なじみになり会話を楽しんでいる方もいる。	日々の散歩やドライブをしながら地域の商店で買い物を楽しむこともある。地域の美容院や理髪店を利用し顔なじみになり会話を楽しんでいる方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医の受診を重視し、本人、家族の希望に応じたかかりつけ医を決めていただいている。受診は基本的に家族対応だが、希望や状況に応じ、職員対応している。受診結果は家族に伝え情報を共有している。	入所前のかかりつけ医の受診を重視し、本人、家族の希望に応じたかかりつけ医を決めていただいている。受診は基本的に家族対応だが、希望や状況に応じ、職員対応している。受診結果は家族に伝え情報を共有している。	受診介助は原則家族対応だが、ほとんど職員が行っている。受診結果は家族に報告するとともに、職員連絡ノートに記して情報の共有を図っている。希望する利用者には囁託医による住診が週2回あり、管理者やケアマネジャーが診察に立ち合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師と情報交換しながらケアを行っている。	施設の看護師と情報交換しながらケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には職員が面会に行き、環境の変化による精神的不安の解消に努めている。病院関係との情報交換を行い、早期退院ができるよう、家族を含め都度検討している。	入院の際には職員が面会に行き、環境の変化による精神的不安の解消に努めている。病院関係との情報交換を行い、早期退院ができるよう、家族を含め都度検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や折りにふれ、重度化及び終末期について家族に希望を聞き事業所として出来る事、方針をお話している。職員間で勉強会を実施している。	入所時や折りにふれ、重度化及び終末期について家族に希望を聞き事業所として出来る事、方針をお話している。職員間で勉強会を実施している。	大半の家族が看取りまで希望している。家族には、食事を終口摂取できる限りは事業所で暮らせるよう支援することを入所時に説明し、状況の変化のたびに話し合うようにしている。看取りのケアについて職員全員で勉強会を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員指導のもと、緊急時対応の指導を受けている。	看護職員指導のもと、緊急時対応の指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を使い、避難訓練を実施している。事業所移転に伴い、避難場所、避難方法について再徹底をしている。	緊急連絡網を使い、避難訓練を実施している。事業所移転に伴い、避難場所、避難方法について再徹底をしている。	11月に利用者も参加して避難訓練を行い、避難誘導経路や方法について職員間で確認した。実際の場面での消火機器の扱い方や夜間の対応について不安の声がある。今回は近隣の商店や消防署との合同訓練を検討している。	消火器やAEDの使い方、夜間職員2人体制時の誘導方法などを取り入れた訓練の実施を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を全職員が心がけ実施している。入浴や排泄、着衣交換など特にまわりに気を配りプライバシーを損なわないよう工夫している。	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を全職員が心がけ実施している。入浴や排泄、着衣交換など特にまわりに気を配りプライバシーを損なわないよう工夫している。	トイレ誘導や歯磨きなど他の利用者に気づかれないよう、さりげない声かけで行われている。個人ファイルや対応の留意点を記した一覧表は、ドアのある小部屋に置かれ、職員以外の人の目に触れない工夫がされている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合った自己決定ができる環境づくりをしている。出来る限り時間にゆとりを持ち「待つケア」を心がけ実践している。	利用者一人ひとりに合った自己決定ができる環境づくりをしている。出来る限り時間にゆとりを持ち「待つケア」を心がけ実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物など可能な限り、本人の希望に沿った時間やタイミングでの支援をしている。	散歩や買い物など可能な限り、本人の希望に沿った時間やタイミングでの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、帽子や小物でのおしゃれを楽しんでいただいている。化粧品や香水でおしゃれを楽しむ方も支援している。	希望により、帽子や小物でのおしゃれを楽しんでいただいている。化粧品や香水でおしゃれを楽しむ方も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせた食事を提供し、職員も同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。調理や片付けなど個々の力に応じて参加していただいている。	一人ひとりに合わせた食事を提供し、職員も同じテーブルで会話を楽しみながら食事をしている。調理や片付けなど個々の力に応じて参加していただいている。	個々の居室の中心に居間兼食堂があり、ドア越しに準備する匂いや音が伝わり、食欲や五感を刺激する。食前には独自の口腔体操を行っている。準備や片づけは、無理強いすることなく本人の自発性や意思を尊重した声かけを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量、食事形態を提供している。食事量・水分量は職員が把握している。その日の状態や気候等により、量や内容など臨機応変に対応している。	一人ひとりに合った食事量、食事形態を提供している。食事量・水分量は職員が把握している。その日の状態や気候等により、量や内容など臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、管理をしている。毎週、歯科医による訪問受診、口腔ケアの指導をしていただいている。	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、管理をしている。毎週、歯科医による訪問受診、口腔ケアの指導をしていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、本人の排泄パターンを全職員が把握している。一人ひとりに合った誘導時間を検討し、無理なく快適に排泄できるよう支援している。	排泄チェックを行い、本人の排泄パターンを全職員が把握している。一人ひとりに合った誘導時間を検討し、無理なく快適に排泄できるよう支援している。	排泄チェックシートにより個々のパターンを把握してトイレ誘導を行っている。リハビリパンツを使用していた利用者が、パットだけで済ませることができるようになった例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防も含め、毎日軽体操を実施している。繊維食料やヨーグルトの提供、腹部マッサージなどを行い、必要に応じて主治医に相談し対応している。	便秘予防も含め、毎日軽体操を実施している。繊維食料やヨーグルトの提供、腹部マッサージなどを行い、必要に応じて主治医に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日の決まりはなく自由に入浴できる。バイタルに問題なければ長さも特に制限はしていない。	曜日の決まりはなく自由に入浴できる。バイタルに問題なければ長さも特に制限はしていない。	毎日入浴できる体制をとっていて、入浴拒否があっても無理強いせず利用者の気持ちに沿って、週2回の入浴を目安に支援している。利用者の羞恥心や恐怖心に配慮して同性介助である。重度化しても職員2名で介助することにより、個別浴槽で入浴できる支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(東)	ユニット名(西)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望や状態にあわせて昼寝を促したり、好きな時間、場所でくつろいでいただいている。夜、眠れない方に対しては日中の活動でリズムを作れるよう散歩や外気欲をしている	希望や状態にあわせて昼寝を促したり、好きな時間、場所でくつろいでいただいている。夜、眠れない方に対しては日中の活動でリズムを作れるよう散歩や外気欲をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の疾患、それに伴う服薬の用法、用量を把握している。身体状況の変化により、薬の内容に変更があった場合は都度、管理者が徹底している。	全職員が利用者の疾患、それに伴う服薬の用法、用量を把握している。身体状況の変化により、薬の内容に変更があった場合は都度、管理者が徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族の話や生活歴の中から楽しみごとになることを見つけ支援につなげている。	本人、家族の話や生活歴の中から楽しみごとになることを見つけ支援につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や散歩、お墓参りなどそれぞれの希望やペースに合わせて外出している。家族との小旅行を楽しむ方もいる。	買い物や散歩、お墓参りなどそれぞれの希望やペースに合わせて外出している。家族との小旅行を楽しむ方もいる。	日常に会話や来所した家族との面談の時に意向を確認している。行きつけの美容院や墓参り、昔馴染みの友人の誘いでカラオケに行くなど、利用者の思いに沿って外出できるよう支援している。家族と連携して、利用者の米寿のお祝いを泊まりがけで出かける支援も行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望と力に応じ、家族の理解を頂きながら出来る限り支援している。	希望と力に応じ、家族の理解を頂きながら出来る限り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの手紙や季節の贈り物など買い物も含め支援している。	家族や知人からの手紙や季節の贈り物など買い物も含め支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の準備の香りが広がり食事への関心をもち刺激になっている。季節に応じた飾りつけで会話がはずんだり、笑顔のきっかけになるよう工夫している。	食事の準備の香りが広がり食事への関心をもち刺激になっている。季節に応じた飾りつけで会話がはずんだり、笑顔のきっかけになるよう工夫している。	玄関正面にクリスマスツリー、それぞれの部屋の扉にはクリスマスリースが掛けられていて、さりげなく季節感を取り入れている。温度管理のために随所に温度計が置かれている。乾燥による感染症を予防するため、加湿器を増やしたり、濡れタオルを掛けておくなど工夫が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りこなれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内に何箇所かソファがあり、思い思いに自由に過ごすことができる空間がある。	ホーム内に何箇所かソファがあり、思い思いに自由に過ごすことができる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の意向や本人の身体状況により異なるが、家で使用していた布団や家具等、使い慣れたものを持ってきていただいている。	家族の意向や本人の身体状況により異なるが、家で使用していた布団や家具等、使い慣れたものを持ってきていただいている。	自宅の居間や寝室と同じように仏壇や家族写真、贈り物の鉢植え植物、炬燵、冷蔵庫など、一人ひとりの思いを尊重して、居心地よく過ごせるような居室づくりがされている。自宅で毎日晩酌が欠かせなかった利用者には、ノンアルコールビールに替えることで本人の満足を得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせた環境について都度、職員間で話し合い必要に応じて、手すりを設置したり安全に過ごしていただくための工夫をしている。	個々の状態に合わせた環境について都度、職員間で話し合い必要に応じて、手すりを設置したり安全に過ごしていただくための工夫をしている。		